

会報

国鉄闘争全国運動

国鉄分割・民営化反対！ 1047名解雇撤回！

129号  
2021年2月16日

国鉄分割・民営化に反対し 1047名解雇撤回闘争を支援する全国運動事務局  
千葉市中央区要町2-8 DCC会館内  
TEL 043-222-7207  
nationwidemovement@yahoo.co.jp

# 東京地裁署名に全力を

## 各地で分割・民営化による不当解雇から34年 国鉄集会を開催

不当解雇から34年を前に国鉄集会が各地で開催された。東京・四谷区民ホールでは2月14日、「国鉄分割・民営化による不当解雇から34年2・14国鉄集会」が開催された。今年の国鉄集会は2部構成で行われた。



国鉄闘争全国運動呼びかけ人の伊藤晃さんは「新自由主義が医療や教育、地方自治を崩壊させてきた。現場の労働者にしか見えない問題がある。しかし現在の労働運動はそこに目を向けていない。そこをとりあげることが労働運動の歴史的限界を乗り越える」としてその問題意識を提起し、第1部は「労働運動の変革のために」と題して、甲南大学教授の熊沢誠さんのビデオ講演、動労千葉の田中康宏前委員長の問題提起を行った。続く第2部は、冒頭に動労千葉の関道利委員長が「34年間、われわれは解雇撤回を一貫して闘ってきた。すべての労働者の団結と権利がかかった闘い。闘

う以外に団結を守る道はない、委員長になってその決断の大きさを実感している。闘ったことで外注化も阻止してきた。組織拡大の力で外注化を粉砕する」と訴えた。

関西生コン支部の武谷新吾書記次長は、全国からの支援に感謝を示すと共に武委員長らの奪還、労働委員会、不当解雇の撤回などの勝利を報告。「昨年11・1労働者集会と同じ日に大阪都構想を粉砕した。3労組で労組交流センターの共同代表になった。今年の11月集会を成功させ、関西でも労働者集会を行いたい」と語った。

船橋二和病院労組の飯田江美委員長は「スト後の反動を引き

受けることが大変だったが、理不尽にはまともに立ち向かうしかない。労働者は必ず変わる」として、労組解体を狙った就業規則の改悪、労働者代表選挙の強行と闘う決意を示した。

1047名解雇撤回闘争について4人の弁護士が登壇、国鉄闘争全国運動呼びかけ人でもある葉山岳夫弁護士は「中労委は真実に蓋をした。これを粉砕することは階級的労働運動の復権につながる」と訴え、4・16東京地裁結集を呼びかけた。

動労千葉争議団の中村仁さんは「国とJRに誤りを認めさせ、署名と物販は闘いのパスポート」として全国の職場・地域で

署名運動の展開を訴えた。

動労総連合1047協議会の羽廣憲さんは「私たちは闘う道を選択した。九州でも非正規労働者の怒りが爆発している」と九州での闘いを報告した。

国鉄闘争全国運動・新潟が署名運動の取り組みを報告し、政治和解以来という労組が10年ぶりに署名に協力してくれたとして、関西生コン支部への弾圧などへの危機感があることを指摘し、「政治和解で孤立したが、労働者の中には解雇は許さないという気持ちはある。署名をがんばろう」と呼びかけた。

3月タイ改阻止の闘いを動労千葉の川崎昌浩書記長が提起。ワンマン拡大阻止、シヨブロー

ーション粉砕などを掲げ、3月タイ改ストの決意を示した。

東京の会・共同代表の木下武男さんは「関生弾圧を跳ね返すのは、関生のような労働組合をつくること、それは日本の労働運動の再生につながる」と提起。

「療原が目の前にある。火をつける人たちはここにいて」として職場で闘い、業種別の組織化の先頭にと訴えた。

闘いの報告と決意では動労千葉の山田護署長が外注先のCTSでプロパー社員が次々退職している実態を示し「外注化は破綻し、まともな業務遂行もできない」として組織拡大で外注化を粉砕する決意を示した。幕張支部の北村武さんは「清

掃職場でも辞めても会社は要員を補充しない。コストカットを労働者にしわ寄せしている」と弾劾、組織拡大を実現したいと語った。

千葉運転区支部の関和幸さんは、駅に強制配転された20代の頃、当時の布施書記長に「このまま辞めて悔しくないのか」と言われたエピソードを紹介、「いつかは晴らしたい」と思いで今がある」と闘いの決意を語った。

動労水戸の木村郁夫委員長は「動労水戸は国鉄分割・民営化の直前に結成され、動労千葉の先輩や全国の仲間と共に闘ってきた」として1047名解雇撤回などを訴えた。

国鉄闘争全国運動呼びかけ人の金元重さんが「それぞれの発言にワクワクした。裁判はこれから佳境。法廷だけでなく労働運動として闘うことが必要」と署名運動などを訴えた。

### 裁判所は真実に向き合え

#### 東京地裁に署名3763筆提出

2月3日、国鉄1047名解雇撤回に向けた行政訴訟の第2回裁判が東京地裁で行われた。裁判に先立ち署名提出行動を行い、3763筆の署名を東京地裁に提出した(写真)。

中労委は一切の審理を拒否し、裁判でも、斎藤英四郎JR設立委員長が具体的にどのような不採用基準の策定を指示したのかという事実について「判断する必要がない」と主張してきた。「国鉄改革法に名簿作成は国鉄が行う」と書かれているから、事実がどうだったかは関係ない」と言うのだ。

なぜこんなペテン的な主張になるのか。真実に触れれば、解雇撤回・JR復帰を認めざるを得なくなるからだ。

弁護団は、真実から逃げようとする中労委を弾劾し、不当労働行為過程の事実について見解を明らかにするよう追及した。

要求したのは、①「本州の全員採用」の方針に鉄道労連(JR総連)が反対したこと、②葛西敬之、井手正敬が斎藤英四郎設立委員会委員長と会い、不採用基準を策定するよう説得したこと、③斎藤英四郎設立委員会委員長が葛西敬之に対して不採用基準の策定を命じたこと、④87年2月12日の第3回設立委員会で斎藤英四郎委員長の下で不採用基準が正式に決議されたこと、⑤不採用基準に基き、葛西敬之の指示により国鉄職員課補佐だった伊藤嘉道、深澤祐二らが該当者を採用候補名簿から削除させたこと―などについての見解だ。

裁判の核心は、中労委が隠蔽しようとした国家的不当労働行為の真実を徹底的に明らかにすることだ。それ抜きに不当労働行為は判断できない。

だが、裁判長はこの要求に目を向けようともせず形式論に終始した。

### 証人尋問を行え

そもそも「法律上の整理」が問題になった原因も千葉県労委、中労委が一切の審理を拒否してきたことにある。

千葉県労委ははじめから「最高裁判決に反する命令は書けな

展開しよう。

裁判所が行うべきは、審理を尽くし、真実をすべて明らかにすることだ。葛西敬之、深澤祐二の証人尋問を行え！ 東京地裁を包囲する署名運動を全国で展開しよう。

### 解雇撤回・団交開催行政訴訟

4月16日11時 東京地裁527法廷

東京地裁宛て  
行政訴訟署名

3859筆

(21年2月16日)

### 解雇撤回！路線廃止反対！

## 2・13北海道国鉄集会

札幌市で2月13日、「解雇撤回！路線廃止反対！2・13北海道国鉄集会」が開催されました。冒頭、司会が集会の獲得目標について、国鉄闘争を軸に労働運動の再生を展望すること、コロナ解雇・失業に闘う労働運動の登場が求められていること、国鉄闘争と関生支部支援をひとつにして闘うことを提起しました。

全国労働組合交流センターの飯田事務局長から「国鉄闘争の現在と新自由主義を打ち破る労働運動―国鉄闘争が生み出した関生支部、港合同、動労千葉の



表も参加し、2月14日に関生支部の七牟礼副委員長と武洋一書記長を招いた講演会を開催するとの報告がありました。そして現場で闘う労働者からの決意表明がなされました。地域合同労組は、「北海道も病院でクラスターが発生している」と訴えました。

## 3月ダイ改阻止ストライキへ

### 分社化・転籍に突き進むJR東

### ワンマン運転拡大・ジョブローテーション許すな

3月ダイ改で内房線、外房線、鹿島線へワンマン運転が拡大されようとしていることに沿線住民から大きな懸念や不安が広がっている。運転士二人で事故や遅れが発生したとき対応できるのかの声も上がっている。駅の無人化で駅員もいなくなる中、車掌もなくワンマン化は「障害者」への対応なども完全に放置されている。地元にもな説明も周知もなく、ワンマン運転を強行しようとするJRに対し、公共交通としての使命はないのかと怒りの声が高まっている。

昨年11月に「ワンマン運転問題を考える勉強会」を開き、そこで障害を持つ方々、また動労千葉の現役運転士からの切実な声を聞き、「ワンマン運転導入の中止を求める署名を開始した。署名用紙を地元の市役所や商店会、各商店や喫茶店など各所に配置し、外房線の会ともに幅広く協力をよびかけている。また沿線自治体への陳情・請願行動(館山市は昨年12月に意見書を探採)、千葉県知事選候補者らへの公開質問状やチラシの配布など、活発に運動を展開している。

2月異動の大半が駅への異動で、しかも、ライフサイクルとは違い、基本的に「片道切符」の異動なのだ。3月ダイ改で、内房線・外房線・鹿島線でのワンマン運転拡大が強行されれば、車掌の要員はさらに削減され、ジョブローテーション発動にもつながる。運転職場において強制配転のターゲットになっている東労組は「反対ではなく施策をつくる」としてジョブローテーションを容認した。現場に怒りはあっても、東労組によって声を上げることも諦めさせられている現実がある。だが、黙っているわけにはいかない。この攻撃はここで終わるものではないからだ。何の反対もなければ、攻撃は次々にエスカレートする。

## 九州で国鉄集會を開催

### 労働運動再生へ具体的展望

福岡市内の「もちバレス」で2月13日、「国鉄1047名解雇撤回！闘う労働組合を甦らせよう！2・13九州国鉄集会」が開催されました。

動労総連合九州の羽廣憲委員長が基調を提起。

「国鉄分割・民営化の目的は改憲と労組破壊。しかし国労本部はその本質を見抜かず、屈服に次ぐ屈服を重ねてきた。私たちは絶対反対を貫き、5・27臨大弾圧や4・9政治和解を打ち破って団結を守り抜いてきた。それが活きる時」

「昨年からは福岡でも立て続けに争議が開始されている。すべての現場に労働者が人間扱いされないことへの腹の底からの怒りがある。30年間、国鉄闘争を



JRの現場に闘う労働組合の旗を打ち立てよう。3月春闘、1メーデーを闘いぬぎ、国鉄闘争全国運動の全国集会への大結集を実現し、1047名解雇撤回を実現しよう――と訴えま続いて登壇したレイバーユニオン福岡の吉田理委員長は「立て続けに争議が開始され非常に忙しくなっています。本場に階級的労働運動に端緒に思っています」と高揚感をもって訴え争議当

打ち破ったことを意気軒高と報告しました。すべての発言に団結して闘うことへの確信がふれ、闘う労働組合を現場から再生させる具体的展望を示す場として、九州における2・13国鉄集

会は大成功しました。



いま職場では、「要員が足りない」ところが運転士や車掌が本人の希望と関係なく次々と駅に異動させられている。結局、ワンマン化の目的は要員削減・コスト削減で利益を追求することだけなのだ。要員確保のためにも、地域のためにも、鉄道の安全のためにも、会社は他方で、普段

はデスクワークをしている管理者などに列車の運転をさせている。JR東日本はこれを「乗務員のコロナ感染時の要員確保のため」とマスコミに発表している。本職の運転士や車掌を駅に強制配転しておきながら、こんなことを言っているのだ。現実に行われているのは、コロナ禍を利用したJRの大合理化攻撃だ。

3月ダイ改粉碎へ 職場から団結して声をあげる。ことこそが攻撃を打ち破る力だ。職場では問題が山積みだ。エルダーを希望地に再雇用せよ。業務の外注化反対、消毒・清掃業務強化のCTSにまでも賃金と労働条件を。貨物ベアゼロ回答打破、人事賃金制度撤廃。65歳・70歳まで働ける労働条件の確立などを掲げて動労千葉はストライキを含む3月ダイ改粉碎の闘いを2・14集会において宣言した。共に闘おう。